

平成27年度施策評価調書

整理番号	15
評価担当課	建設水道部都市整備課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	広域幹線道路の整備		
総合計画の位置づけ	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
	主要施策	27	道路の整備

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	広域幹線道路を管轄する国や北海道に対し、市民要望などを踏まえて、歩道の新整備や老朽化に伴う維持的な補修などを中心に要請し、早期着工や整備促進を図る。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	まちづくり懇談会をはじめ小中学校PTA懇談などで市民の要望を聞き取りをしている。
施策の課題	国や北海道の情勢によって、要求した事業すべてが早急に実現することは難しいこと。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度 (H29年度)
広域幹線道路の整備	歩道整備目標延長に対する達成率	目標値	—	—	—	100
		実績値	—	—	—	—
		進捗率	—	—	—	—
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				
		目標値				
		実績値				
		進捗率				

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
A	歩道整備に向け順調に推移している	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

市民要望を早期実現化するために、具体的な内容で整理し国や北海道への要求を強めていく。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

—

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	国道の改良・整備	広域幹線道路を管轄する国に対して、市民からの意見をもとに、要望・要請をする。	—	a	a	a	a	d	A		
2	道道の改良・整備	広域幹線道路を管轄する北海道に対して、市民からの意見をもとに、要望・要請をする。	—	a	a	a	a	b	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	15	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	都市整備課 土木係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	広域幹線道路の整備(国道)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	27	道路の整備
		基本事業	72	広域幹線道路の整備
		実施計画事業		国道の改良・整備

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	国が管轄する広域幹線道路の国道239号線のバイパス整備や各歩道の再整備などの維持事業の早期実現により、市民の安全で円滑な交通空間を図るため。			
対象(何を又は誰を)	市民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	広域幹線道路を管轄する国に対して、市民からの意見をもとに、要望・要請をする。			
意図(どのような成果を期待しているか)	要求事業の早期着工・整備推進を促し、市民の快適で安全・安心なまちづくりに寄与する。			
事業実施主体	国			
事業実施方法	直 営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	年度	終期設定	有 (終期 年度) ・ (無)
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (H29年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
成果指標	1		目標					
			実績					
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	0	0	0	0	
国道支出金	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	
一般財源	0	0	0	0	
人件費	—	—	—	—	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	—	—	—	—	
総事業費	0	0	0	0	
対前年比(%)	—	—	—	—	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	—	—	—	
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	国の情勢によって、道路整備の着手のタイミングや事業進捗に影響してくる可能性がある。
改善点	指摘事項 有 () —

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	行政として地域で抱える問題を、国へ要望・要請することは必須でありニーズは高い。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	市民から聞き取った意見を整理し、国へ直接要望することは、方法として最短ルートであり有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	事業実施主体が国であるため、削減の余地はない。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	道路整備は、公共性のある事業なので、受益者負担とならない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	d	事業着手に至っていない。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	早期実現に向けて国への要望を続けていく。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
—	—

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	15	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	都市整備課 土木係		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	広域幹線道路の整備(道道)			
総合計画の位置づけ	有 無	基本目標	3	自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり
		主要施策	27	道路の整備
		基本事業	72	広域幹線道路の整備
		実施計画事業		道道の改良・整備

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	北海道が管轄する広域幹線道路の歩道未整備区間における整備の早期実現により、通学する学生などの市民の安全・安心な歩行空間を図るため。			
対象(何を又は誰を)	市民			
手段＝活動(仕事) (どのような方法で)	広域幹線道路を管轄する北海道に対して、市民からの意見をもとに、要望・要請をする。			
意図(どのような成果を期待しているか)	要求事業の早期着工・整備推進を促し、市民の快適で安全・安心なまちづくりに寄与する。			
事業実施主体	北海道			
事業実施方法	直 営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	H27 年度	終期設定	有 (終期 H29 年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (H29年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 用地調査・物件調査	m	目標	—	—	—	200	H27に用地調査・物件調査予定
			実績	—	—	—	—	
	2 用地買収・物件補償	m・棟	目標	—	—	—	—	H28に用地買収(L=200m)を予定
			実績	—	—	—	—	H28に物件補償(N=1棟)を予定
	3 歩道整備	m	目標	—	—	—	—	H29に歩道整備(L=200m)を予定
			実績	—	—	—	—	
成果指標	1 目標率	%	目標	—	—	—	100	100
			実績	—	—	—	100	—
	2		目標					
			実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	0	0	0	0	
国道支出金	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	
一般財源	0	0	0	0	
人件費	—	—	—	—	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数	—	—	—	—	
総事業費	0	0	0	0	
対前年比(%)	—	—	—	—	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	—	—	—	
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3)事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	北海道の情勢によって、歩道整備の進捗に影響してくる可能性がある。
改善点	指摘事項 有 () —

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	行政として地域で抱える問題を、北海道へ要望・要請することは必須でありニーズは高い。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	市民から聞き取った意見を整理し、北海道へ直接要望することは、方法として最短ルートであり有効である。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	a	事業実施主体が北海道であるため、削減の余地はない。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	a	歩道整備は、公共性のある事業なので、受益者負担とならない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	平成27年度に北海道が事前測量・調査を実施予定しています。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	事業化に向けての事前調査を行っているため。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
—	—

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり